

生分解性スリットマルチの効果確認

JAとまこまい広域

佐田 正彦



試験区 7.3撮影



慣行区 7.3撮影



試験区 9.10撮影



慣行区 9.10撮影



試験区 11.5撮影



慣行区 11.5撮影

試験目的

生分解性マルチ長尺巻きの実用性確認試験

試験作物
及び品種

かぼちゃ(えびす)

試験資材
及び数量(規格)

コーンマルチⅡ(0.015mm×95cm×600m) 黒 無孔 4本

慣行資材

Bio-PAL(0.012mm×95cm×800m) 黒 無孔

栽培方法

定植日

慣行区:6月15日
試験区:6月15日

資材使用期間

6月10日~10月

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

展張中に切れることなく、作業性は問題なかった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

7月25日調査時には、試験区の方が若干茎長が長い傾向にあったが、収穫に影響が出るほどの差はなかった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：試験品の方が厚い分、保温効果が高いことが期待できる。

【問題点】：試験品の長尺巻きは600mで、慣行品は800m巻きのため、マルチャーの交換作業の手間が増える。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

厚みのある分、試験品の方が若干強度が高いと考えられる。

分解性については、好き込み時には大きな差はなかった。

(5)保温効果について

慣行品より厚いため、若干保温力は高いと考えられる。

モニター感想

展張作業や定植作業について特に問題なく、収量にも差はなかったように思う。

収穫時の分解度合いも問題なく、スムーズに鍬込みを行うことができた。

生分解性マルチは作業上問題なければ、収穫前・翌年度作付け時の分解性が気になる。

輪作体系のうち、かぼちゃの後に長芋を作付けすることが多いため、圃場に分解せずに残っていないかは、今後見ていきたい。

価格が若干高い程度であれば、次年度から購入・使用したい。

JA担当者の感想(資材燃料課 栗野課長補佐)

現状は、薄肉であることから800mの長尺巻きが可能なBio-PALを中心に取り扱っている。

今回の試験品は、強度や品質面では遜色ないと思われる。600mの長尺巻きでも問題なく、展張作業を行うことができた。また、慣行品と同様な分解速度かどうかは、今後観察していきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。